

まごのて新聞

2026
新春号



《発行元》
株式会社 匠技建



新年のご挨拶



株式会社 匠技建
代表取締役 宮崎 昭人

**新年あけまして
おめでとうございます**

昨年は大阪万博が開催され、今年も2月に冬季オリンピックが開催されます。世界が注目するイベントが続ぎ、今年も多くの感動が生まれるのではないかと思います。参加される選手の皆様の活躍を祈念いたします。

さて、昨年は建築基準法の法改正があり手続きなど建物に求められることが多くなりました。お客様にとっては今まで以上に安心頂けるようになったのではないかと思います。しかし、申請手続きや資材の高騰で新築住宅購入のコストは上昇している状況です。私共は、お客様が求めやすくなるよう柔軟に対応し、夢を叶える家づくりのお手伝いができるよう、より一層の努力をまいります。また、リフォーム事業も更に充実させて、皆様のご困りごとを解決できるよう力を注いでまいります。昨今は人手不足の問題もありませんが、協力業者と連携してサービス向上に努めてまいります。

今年も匠技建グループは感謝の気持ちを大切に、皆様のご期待に添えるよう邁進してまいりますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。皆様にとって良き一年になることを祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。



匠会協力業者会
会長 内野 賢一

新年あけましておめでとう
ございます。

昨年も多くのお施主様にご支援を賜り心より感謝申し上げます。

私たち匠会協力業者会は、現場を支える職人・協力会社の集まりとして、日々「安心・安全で、心地よい住まいづくり」を目指して取り組んでまいりました。

ここ数年、建設業界は資材価格の高騰や人手不足など、さまざまな変化に直面しています。

このような時こそ「人と人のつながり」を大切に、仲間と支え合いながら、確かな仕事を積み重ねていきたいと思っております。

お施主様にとって、家づくりは一生に一度の大きな出来事です。その思いに添えるため、今年も匠会協力業者会一同、誠実なものづくりで安心と笑顔をお届けしてまいります。本年も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



匠技建グループ 会長 渡辺 一夫
株匠技建 宮崎 昭人
株オメガ 小林 晶

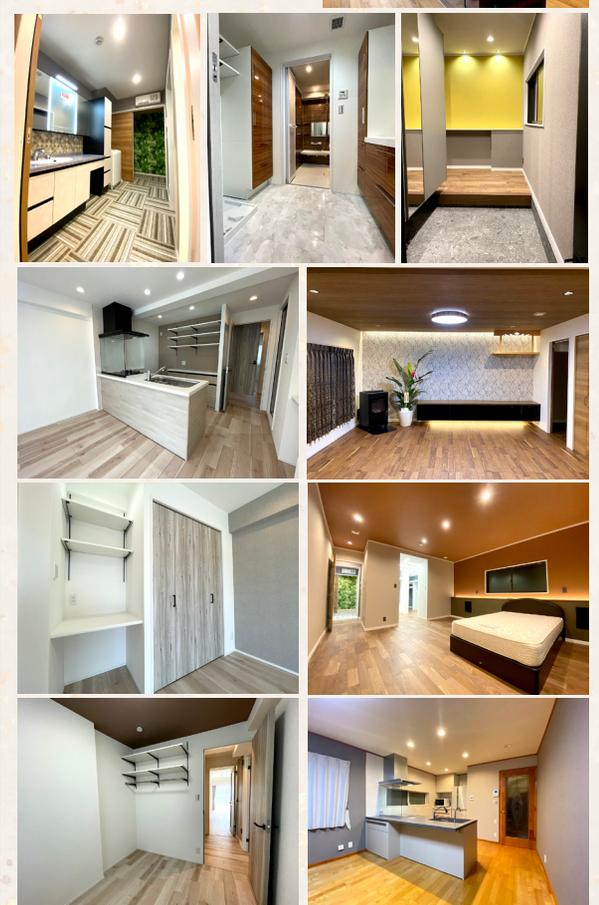
匠技建では リフォームも承っております！

匠技建ではリフォーム事業も手掛けており、長年培ってきた経験をもとに快適に、そして安心して暮らせる住まいづくりをお手伝いいたします！

戸建てだけでなくマンションや店舗も対応できます。

東京都の補助金を利用して、内窓やドア、ユニットバスなどお得にリフォームすることができますので、ご検討中の方はぜひ匠技建にご相談ください！

REFORM GALLERY



NEW HOUSE GALLERY

2026年はどんな年?

前回の丙午は1966年(昭和41年)でした。そこで60年前の出来事を表にまとめてみました!

1966年(昭和41年)の出来事

1/5	サンヨー食品から「サッポロ一番」を発売
2/4	全日空羽田沖墜落事故
4/26	日本で戦後最大の公共交通機関ストライキ実施
5/15	日本テレビ系の演芸番組「笑点」放送開始
6/25	敬老の日・体育の日(現在はスポーツの日)制定
6/29	イギリスの人気ロックバンド、ビートルズ来日
10/1	江崎グリコから「ポッキー」を発売
11/1	国立劇場開場

今年の干支は「午」ですが、本来の干支は十干と十二支の組み合わせで成り立っているの
で正確にいうと「丙午」(ひのえうま)になり、60年周期の干支の中で43番目に位置して
います。

「丙」は五行の火の陽の性質を持ち、太陽のような明るさや情熱・強い意志の象徴の意味
が込められ、「午」も火の性質を持ち、行動力・スピードやエネルギーの意味が込められて
います。この2つの組み合わせである丙午には「情熱と行動力で突き進む」「燃え盛るよう
なエネルギーで道を切り開く」といった縁起の良さが表されています。

そんな2026年の丙午は熱量や勢いに満ちた年とされます。情熱が高まりやすく、思い切った行動や決断をしたくなる一方で焦りや衝突につながる可
能性もあるので、冷静さを意識して行動しましょう。また、目標に向けて一歩踏み出すには
いいタイミングですが、動くことだけでなく整えることも意識すると、より運気の流れを安
定しやすくなります。

2025年は4月から大阪・関西万博が開催されたり、10月には2人の日本人研究者が
ノーベル賞を受賞するなど、世界から注目を集めた年でした。今年には冬季オリンピック・パラリンピックやFIFAワールドカップといったスポーツイ
ベントやAIや再生可能エネルギーの最新技術といった展覧会が開催されるなど、まだ
まだ熱気は収まりそうにありません。丙午のエネルギーに乗って楽しい一年にしていましょ
う!

お正月に 甘酒を飲むのはなぜ?



「甘酒」と聞くとお正月に初詣で振舞われてい
るイメージを持つ方も多いのではないのでしょうか。
今回はなぜお正月に甘酒を飲むのかについて紹
介していきます。

甘酒の歴史は長く、 さかのぼると奈良時代

甘酒の歴史を辿ると奈良時代まで遡ります。日
本の歴史書『日本書紀』には木花咲耶姫(このはな
さくやひめ)が稲を使って作ったとされている「天
甜酒(あまのたまむぎ)」が甘酒の起源とされてい
ます。

栄養価が高い甘酒は、当時から夏バテ防止のた
めの飲み物として人々に好まれ、俳句の夏の季語
になるほどでした。

初詣と甘酒のつながり

初詣と甘酒の関わりは、米農家が前年のお米の
収穫への感謝と新しい年の豊作を願う、収穫した
お米で作った甘酒を新年に奉納する習わしから始
まったと考えられています。

そもそも古くから甘酒は体にいいものとされ
お正月に飲むことで魔除けや邪気払いをし、一年
を無病息災で過ごすことができるとされていま
した。また、原料であるお米は命につながる食べ物
として、神様とつながるものとして考えられていたこ
とから、飲むことで全体的な運気が上がる縁起が
いい飲み物とされているのです。

本来であれば新年は生薬を日本酒とみりん
に浸したお屠蘇(おとそ)を飲むのが習わし
が、飲む人が限られてしまったため、代用品として
甘酒が振舞われるようになったことも大きな理由
と考えられます。

甘酒が「飲む点滴」といわれる理由

甘酒には腸内環境を整える効果があるオリゴ
糖や食物繊維、疲労回復や集中力向上が期待でき
るブドウ糖、美白・美肌効果や肌荒れに効く麹菌
といった、栄養がたっぷり含まれていることが所以
で「飲む点滴」といわれています。飲む時間帯に
よって得られる効果も異なります。目覚めをスッ
キリさせたい方やダイエットをしている方は朝、リ
ラックス効果や安眠の効果が高い方は夜がおす
すめです。一日の中で一番疲れが出やすいお昼過ぎ
から夕方方に飲むのもリフレッシュできるでしょう。

お正月は甘酒を飲んで健康に、そして今年一年
の運気を上げていきましょう!

お正月 クロスワードパズル

1	2	3	4	5
A				D
11		12	C	6
	13	7	14	
8		9		
		15		10
16	B	17		

A. 寒い夜は

A B C D を

お布団に入れて暖かくしよう!

《タテのカギ》

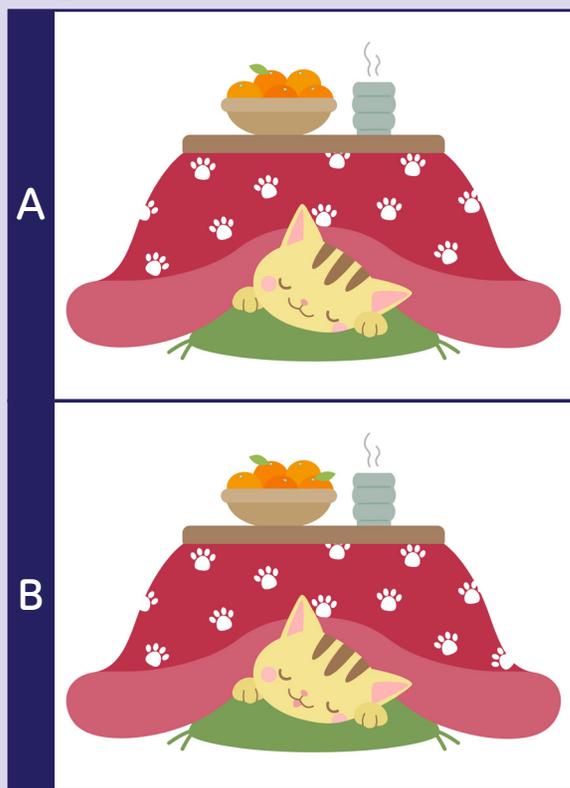
- 冬至の日にお風呂に浮かべる柑橘類といえば?
- 「デジャヴ」を日本語で何という?
- 古代の宝玉で「ラピスラズリ」のことを指します。
- ポケとツッコミの二人組がマイクの前で繰り広げる伝統的な話芸とい
えば?
- クリスマスの時期に見かける植物。赤く見えるのは花ではなく葉な
んです!
- 寒い日は暖かい恰好をして〇〇を引かないように気を付けましょう。
- 青森県にある日本最大級の縄文集落跡として知られる三内丸山〇
〇は2021年に世界遺産に登録されました。
- 形式を整えて行う礼法のこと。
- フランスの伝統的な焼き菓子で、フランス語で「溝のついた」とい
う意味があります。
- この動物は平和の象徴とされています。ヒントは鳥です。

《ヨコのカギ》

- 雪玉を2つ積んで目や鼻をつけて完成するものなんだ?
- 雪が降り積もってあたり一面が白一色になった景色のこと。
- 女王・働き・オスとそれぞれ役割がはっきり分かっている社会を形成
する昆虫はなんでしょう。
- 都心からもアクセスしやすい神奈川県にあるリゾート地といえば?
- 海辺にあること。〇〇〇工業地帯などと言いますね。
- アサリ・サザエ・ハマグリなどを総称すると?
- 仏教の修行法の一つで心を落ち着かせて精神統一をすること。
- 蚕の繭からつくられる天然繊維で、英語ではシルクといひます。
- 慣れないスーツ姿も、今ではすっかり〇〇についてきた。
- 劣化・故障した車両やパソコンなどを元の状態に修復すること。

3つのまちがいさがし

下のA,B 2枚の絵は、よく見ると3カ所ちがうところがあります。
どこが違うのでしょうか?(注:A,Bの記号や、色の濃淡の違いはカウントしません。)



※ 解答は匠技建HP「新着情報」に掲載しています。

株式会社 匠技建

匠技建

検索



まずは、
資料請求から!

<https://www.takumigiken.com>

匠技建お客様窓口

フリーダイヤル

0120 045-171

mail : info@takumigiken.com

〒190-0002 東京都立川市幸町2-43-7 TEL : 042-534-1171 FAX : 042-534-5394